



建白書

月乳參拾壹山三九月念壹日

建白者

憲政黨員 白瀨 直瀨



114
A4342



建白書

軍備緊縮案

上皇、日本帝國陸軍指揮、密復相ヲ取述スルノ文

一 建議者略履歴書

以上四篇

目

次



大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

陸海軍両大臣更迭相成度義ニテ建白

議閣政府覆滅ノ後テ受テ天下ノ大勢ニ非リ成之ニテ憲政党内閣組織以テ亦最早ニ閣月ニ重々々々係ラズ陸海軍両大臣更迭無キテ天下万衆之ヲ遺憾トシ切實ニテテ現政府ノ大瑕瑾アリ憲政党内閣ニ到底陸海軍両大臣更迭キ人物ヲ得ルハト疑ハルト為テ天下ノ輿論現内閣ヲ目シテ不完全ニ非ズヤト云々怪疑スルリ今ヤ議閣種族ノ外日本全國其テ憲政党内閣ニ觀アリ陸海軍両大臣更迭ノ人物ヲ得ルハ易ク事ト確信仕美人間味降ノ大英断ヲ以テ急速陸海軍両大臣更迭ヲ決行シ國民全体ノ怪疑ヲ解キ憲政党内閣ノ完全ヲ天下ニ表明セラシム事ヲ謹ニテ及建白美人也

進而本建議案中ト更ニ陸軍將校トモ陸軍大臣更迭格上必要ナル事項ノ一別自所ノ通り之案添付仕美人間若シ差掛リ陸軍大臣更迭キ人物選擇上困難ノ場合モ有之美人ハ先ツ不取敢兜ヨリ始メヨ古例ノ依リ憲政党内閣更迭本建白者ヲ陸軍大臣ノ候補者トシ閣内更迭トシテ事添テ及建白美人也

秋田縣由利郡金崎村七十二番地平民

宮城縣山形市北村本町二十番地平民

明治三十九年九月廿五日

憲政黨員

後合備陸軍部書記正八位勳八等

白瀬

大正元年六月十三日

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

推理上陸海軍兩大臣更迭ノ困難ナル原因概略左記各項、如キ事自
信仕美人

一、陸海軍ニ三十年末迄ト實際陸上陸長特有ノ觀アリ故ニ現今陸海軍大臣
次官格ヲ有ル大中將ニ實際陸上陸長ノ手裏ニ歸シツアリ、此ニ憲政
員中陸海軍兩大臣ヲ得難キノ一原因タリシテ自信セリ、此ノ因習ヲ打破
憲政更替中ヨリ陸海軍兩大臣ヲ得トスルニ武官進級條例改正ノ事以テ足リ
及今ニ陸軍少尉ヲ陸軍大臣ニ兼任セシムルニ一及少尉ノ本官ヲ免ジ更ニ大將



補任スルガ如シ、此ノ場合現内閣員ノ布衣ヨリ出デラ大臣タント一班聊カモ怪シム、干理由
無シ

二、三十年末ノ因習陸長ノ手裏ニ馴致シ、更ニ陸海軍令ニ憲政更替ノ勿論地ナリ
此ノ大任ヲ兼テシテ十方ノ強固ニシテ終ルノ迄劇ヲ演出セシト、此ノ憲政
更替中陸海軍兩大臣ヲ得難キノ一原因タリシテ自信セリ、此ノ所謂キタ陸海軍
部ノ秘奥ヲ知ラズ、局外者ノ淺見ノ如ク、此ノ疑ヲ解キ、憲政更替中
ヨリ陸海軍兩大臣ヲ兼任セシムルニ唯一ノ策、斯レヲ足リトス

三、ヨリ三十年末ノ因習陸長ノ特有ニ歸シ、陸海軍ナリ故ニ他ヨリ容喙スル大
膽ナリ、難シスル外、又ヨリ陸海軍ニ一種特異ノ性質ヲ帶ビツアリ、故ニ局外者ヨリ
之ヲ得難キトスルニ、大ニ得難キニシテ、又憲政更替中ヨリ陸海軍兩大臣
ヲ得難キノ一原因タリシテ、自信セリ、此ノ疑念ヲ解キ、憲政更替中ヨリ陸海軍
兩大臣ヲ兼任セシムルニ唯一ノ策、斯レヲ足リトス

四、本建白者、既ニ之ノ難ヲ以テ陸軍大臣ノ藩閥ノ旋渦中ニ投ゼシトスルノ理
由ナク、如シ

故人青山延光織田右左衛門論中云云云云
 (武略文) 至於毛利氏則其國大而有人今欲取之用勇將耶。吉川在正
 用智將耶。小早川在厚。是知勇將不足用。唯甲斐及坂部之羽柴。足
 搯其攻而奪之氣。故命之羽柴。而西川早知其不可當。以其富用彼我之勢
 者。可謂明矣。

別紙孫兵衛書類

○軍備取集編纂案

(三十五年九月一日調査)

一名陸軍整理

- 一、徵兵年限、内現役三年、二年、短編三件 (其第一世后手破)
- 二、陸軍式改正、件 (上座礼屋系)
- 三、武官進級令改正、件 (許人登庸ノ進路ヲ)
- 四、老朽兵無世子、將校大淘汰、件 (小將讀本ノ諸讀本モ出まかりノ指板)
- 五、聯隊大隊、少佐、大尉、中隊、中尉、少尉、各一名、減員、件 (兵)
- 六、陸軍各馬、官衙、士官、減員、件 (兵員ノ兵)
- 七、現役、豫備、後備、役ヲ通じ、人材、擢、活人、登、三、角、件 (件例ヲ活動的ニ定)
- 八、將校、養馬、飼養、件、改正、件 (尸位ノ法ニ乘馬ヲ飼養セ)
- 九、騎兵、隊、兵、士官、乘馬、一頭、減、隊、馬、數、子、件 (尸位ノ法ニ二頭ノ乘馬支給セ)
- 十、騎兵、團、重兵、山砲、兵、隊、兵、士官、乘馬、ヲ、養、練、習、用、ト、隊、馬、ヲ、使用、セ、

三六ノ件 (五)

十一、高軍官衛兵各師團各隊兵軍医獸医軍史救急ノ件 (五)

十二、隊外准士官下士官救急ノ件 (五)

十三、陸軍尾高救急ノ件 (五)

十四、在國十憲兵隊兵指校下士官救急ノ件 (五)

十五、陸軍教導團兵隊ノ件 (各師團下驛隊大隊に於て下士官候補生)

十六、各地方幼年舞臺校ノ件 (幼年子弟ヲ舞臺人權ノ所ニシテ舞臺ヲ演習セシムル國

家ノ天不)

以上、既定軍備ノ十分師團ヲ其ノ終ニシテ軍費ヲ濫費ノ因習ヲ剛致シ其ノ
本部ノ救政ヲ指摘打破シテ又復論議ノ函案ヲ約シテ師團軍以上ノ經費
ニ該士用ス

別紙添付書類

○上頁ノ日本帝國陸軍指揮ノ二實質ヲ取述ス

指揮人者ハ國家ノ干城ニ軍隊ノ指揮ニシテ恆モ人體ニ於テ神經ヲ主トシ
人體ノ振動ニヤ專ラ神經ニ由リテシテ神經ノ作用ハ微妙ニシテ恒ニ視術ノ
六類ヲ統ハガハ所ニ聲言ノ聞リ統ハガハ所ニ於テ頂上ヨリ至腦ノ命ヲ全體ニ傳
ヘ任体ノ外感傳々之ヲ至腦ニ報ズ即チ力ヲ支テ不測ノ通路ニハモノ此レ之
シラ神經トシテ今指揮ニ即チ任体ノ神經ナリ具クモ

天皇陛下ヲ軍隊ノ至腦トシ

大元帥ト仰キ奉リ獻身致命ヲ

陛下ノ股肱トシ

皇室ヲ護屏シ下ニ國家ヲ保護スル軍隊ノ神經タリテ其ノ地位尤モ
高ク尤モ貴シ故ニ指揮ノ責任ニ重且ツ大ナリ即チ指揮人者ハ軍人ノ首
徳ヲ具備スル非ズハ其ノ地位ニ對シ大有名無ニ毎々ハノシテ軍隊ノ不事
之レヨリ大ニハ無シ軍隊ノ(世守)勳皆其ノ爪ヲ指揮ニ傲ルハナシ指揮
教育令ニヨリ指揮ノ責ニ重シ所以ノ者ハ軍人精神ハ三曲ハ故ニ指揮ノ教育

ハ先ツ此ノ精神ヲ善長ヲラテ王トカネト即チ此ノ軍人精神タヤシクモナリ
忠節ハ孤儀 武勇ハ信義 質素ノ勅諭五々各々ニ外セザリ

軍人トシテ廣義ノ解叔上持枝下士卒ノ全班ニ通ジタル意思トシテ軍人中ト見
軍人トシテ獨リ戰術ノナキ軍紀ニ服従ヲ通識シテ躬ラト士卒ニ先コビテ之

が標旗ヲ示シ知識ト材能トヲ具備シ指揮官ト教官トヲ兼スル持枝其ノ者
ラニテナリ先哲ニシテ武人ノ精神ニ往來ニ任セテ血氣ニ成リ軍人ノ精神ニ博

徳ニ因リ爪忠ニ成レト持枝ハ忠君愛國ノ優者ナラズバカニ忠君ニ敵身致
命ヲイヒ愛國トシテ國家ヲ守護スル者ナリ

軍隊ニテ持枝トナリ唯此トシテ衆兵ノ群ニシテ馬令徒類ノ持枝ニテ持枝ハ
識能ヲ知徳ニ在リ唯此トシテ服裝ノ持枝ハ勅諭ノ罪人トシテ周武ノ所謂億方

人唯此トシテ億方ハ三々人唯此トシテ億方ハ一軍ノ兵衆ヲシテ志身ニ成
ナラシムモノ持枝其ノ人ノ智徳識能ニ依リテ一軍皆軍紀ヲ守テ奉ス

トキハ心志ニテ一軍皆服従ヲ体スルニ依リテ一軍ノ精神ニ服従ニ軍人トシテ
團結ニシテナラシム所以ナリ大綱ナリ軍紀ニ軍人ノ精神ニ服従ニ軍人トシテ
故ニ此ニ軍人トシテ持枝トシテ衆兵トシテ一軍トシテ一軍ノ始メテ純全ナル軍隊ト



ニテ得ル得ル授言ニテ持枝ハ一軍ノ部下ヲシテ悉ク之ヲ化セシムル者ナリ大綱
ガハバカニトシテナリ

已ニ下官トナリテ上官ノ命ヲ受ケル者至誠確實ニテ其ノ命ヲ奉スルニ
ナラズ其ノ命ニ依リテ其ノ識才能ヲ振フテ責任ヲ負ルニ當リ

其ノ任務ヲ全フスルニ至ル者下級持枝ノ職分ニテ上官ニ服従ニ其ノ
命ヲ信ジ之ヲ履行シテ建シテ其ノ模範ヲ部下ニ示スル者ナリ

部下ニ對シ懇切篤切實ニテ其ノ忠告ニ依リテ責任ヲ負フ者ナリ此ノ
シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ

モノ一々大智術ニテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ
命ヲ信ズル者ナリ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ

感ニテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ
ニ此ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ

之所ナリ人ヲノ敬ヲ起セル者ハ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ
唯此ノ軍隊ノ精神ハ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ
之レガ地位ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ其ノ部下ニ對シテ

建白者略後歴書

秋田縣由利郡金浦邑七十二番地手氏

宮城縣仙臺市北材木町二十番地高可立用

憲政委員

以久備陸軍勳章兵部正八位

白瀬

直藤

大久元年一月十二日生

明治二十二年五月ヨリ至二十八年九月ニ至ル三ヶ年間千嶋探検トノ千嶋極大

千嶋ニ渡ル所全嶋ニ上陸スル者ニ至リテ其年全行者三十五名ノ内ニ取後探検中

千嶋ノ外ニ入ル者三十二名ニ至リテ其年全行者三十五名ノ内ニ取後探検中

二、千嶋探検ノ結果ヨリ全嶋ニ至リテ其年全行者三十五名ノ内ニ取後探検中

三、千嶋探検ノ結果ヨリ全嶋ニ至リテ其年全行者三十五名ノ内ニ取後探検中

ノ外ニ入ル者

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

明治二十三年七月一日始メ内閣總理大臣ノ建白書提出スルモ更迭ノ力ヲ無効ト爲ス

第^四 戊午一月二十三日渡辺侍從(官)書類奉答呈付受理せん

第^五 戊午正月廿四日西條師團長ノテヲ経挂陸軍大臣ノ請致書提出付受理せん

第^六 戊午正月二十日谷曾我ノ次三貴族院議員ノテヲテテ近衛貴族院議長ノ請致書提出

受理せん(モモ系議院解散ノカノ無致ニ屬ス)

第^七 戊午五月十四日藤澤外議士ノテヲテテ議院系議院議長尾岡謙吉ノ請致書

提出諸缺委員層ニ於テ可決せん(モモ系議院解散ノカノ無致ニ屬ス)

第^八 明治三十年七月七日憲政十党ノ入會(元進歩主義)

右ノ通りニ其人也

明治三十年九月廿一日

憲政十党員

白瀬

直藤



